

地方創生推進交付金事業 評価・検証シート 【令和4年度実施分】

≪内部評価≫（100点満点） 個別項目についてそれぞれ評価しています。

	評価項目	A (13点)	B (9点)	C (5点)	D (1点)
有効性 (26点)	KPI達成への貢献度	最も効果的である	概ね効果的である	やや効果的ではない	効果を見込めない
	総合戦略への貢献度				

	評価項目	A (14点)	B (10点)	C (6点)	D (1点)
有効性 (14点)	期待した効果の達成度	最も有効的である	概ね有効的である	やや有効的ではない	有効的ではない

	評価項目	A (10点)	B (6点)	C (3点)	D (1点)
効率性 (30点)	コスト効率	最も効率的である	概ね効率的である	やや効率的ではない	効率的ではない
	手段の最適性	最適の方法である	概ね適切である	やや適切ではない	適切ではない
	受益者負担は適切か	最適の方法である	概ね適切である	やや適切ではない	適切ではない
持続性 (30点)	必要な体制は整っているか	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない
	必要な技術はあるか	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない
	必要な財源の見通し	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない

≪総合評価≫ 個別項目の合計点により、総合評価をしています。

	得点率	得点	目安となる考え方
A	80%以上	80点以上	計画通りの実施が適当
B	79~50%	79点~50点	一部見直しで足りる程度
C	49~20%	49点~20点	見直すべき項目がある
D	19%以下	19点以下	事業の統合、廃止等の検討が必要

令和4年度事業額：6,077,720円（総事業費21,554,000円）

交付金充当額（補助率1/2）：3,038,860円（総交付額：10,777,000円）

評価対象期間：令和4年度（事業実施期間：令和4年度～令和6年度）

＜事業の概要＞

・いつまでも住み続けたいと思えるには、安心して暮らすことができるまちづくりを行うことが必要である。地方創生が目指すものの1つである、「安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」を実現し、市民生活の安全や安心を維持することができるよう、市民の生命を守り、誰一人取り残すことなくいつまでも安心して暮らすことができるまちを目指す。そのため、市民の健康増進を図ることで、いつまでも健康的に暮らすことができるとともに、環境面における負荷を減らすことで持続可能な社会を実現する。

【健康増進】

「ウォーキング」に焦点を当て、官民共同で組織的に取り組むことで、継続的・組織的な取組へ構造改革し、地域の健康習慣の定着を目指す。

【環境負荷の低減】

食品ロスの削減により、まちの持続可能性を高めるとともに、新型コロナウイルス感染予防措置などにより疲弊する地域経済を、人口構造の変化や新しい生活様式に対応していく事により活性化することで、暮らしやすい地域づくりをIT活用により目指す。

＜事業の進捗状況＞※主な事業を記載



＜健康課題のヒアリング＞ 所管：健康推進課

津島市地域学校協働本部コーディネーター、市民協働課職員、民生児童委員、地域コミュニティ関係者、津島北高校ボランティア部の方々と、地域の健康課題について聞き取りを実施した。楽しく体を動かすことが運動の原点であり、健康づくりに継続的に取り組むことができるポイントであることが分かった。



＜健康づくりアイデア練習会＞ 所管：健康推進課

地域各所で活動している市民とともに、**楽しみながら体を動かすことができる取組を募集する**「これってステップコンテスト」に向けた準備を中心に取り組んでいただいた。体を動かす楽しさを、盆踊りや絵本などのツールを手掛かりに体験し、自由にアイデアを出し合っていたいただいた。参加者同士で共有することで、健康づくりへの認識を深めることができた。



＜食品ロス削減マッチングサービス「タベスケ」導入＞ 所管：生活環境課

食品ロス削減の啓発の一環として、規格外品、消費（賞味）期限が近い食品などを安価で出品、購入予約できる専用ウェブサイト「もったいない津島 by タベスケ」を導入した。協力店募集用と市民周知用のチラシを作成し、事業者向け説明会開催や食料品店等を戸別訪問した。9店舗の協力店登録と1,004名のユーザー登録を得た。

その他事業について

	事業名	概要
1	庁内準備会	市役所内の職員から有志を募り、「これってステップコンテスト」の概要を検討した。
2	スクールコーディネーターワークショップ	各学校で活動するスクールコーディネーターとともに、健康に対する意識や取組を共有し、学校と一緒にできること、地域と一緒にできること、親子や家族と一緒にできることについて話しあった。

《KPI の状況》

	指標名	基準値 (現状値)	中間 目標値		最終 目標値	累計	最終目標値の実施状況 に関する評価
		2021	2022	2023	2024		
指標 1	「あいち健康プラス」アプリ登録者増加数 (人)	221	100	200	300	600	事業実施1年目で最終目標値を達成することができた。楽しく体を動かすことを広めることで登録者を増やすことができた。
	実績値		390				
指標 2	食品ロス削減量 (kg)	0	400	5,000	6,000	11,400	目標値を大幅に下回る結果となったが、食品ロス問題の啓発に役立った。
	実績値		5				

《成果》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

歩数や健康に関する目標を設定できるスマートフォンアプリ「あいち健康プラス」を活用することでより気軽に健康づくりに取り組むきっかけとなり、楽しく体を動かすこと、目標をもって健康づくりを進めることができた。スマートフォンの普及も、アプリ導入の追い風となった。

また、「タベスケ」の周知活動を通じ、市内の飲食・食料品店や市民に向け、食品ロス削減への意識を醸成・啓発することができた。

《事業の課題》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

歩くことや体を動かすことができない方、苦手な方、めんどくさいと感じている方、健康づくりに無関心な方へ、どのように健康習慣に取り組んでもらうか、多くの方のご意見・ご協力をいただき、巻き込んでいく方法を検討する必要がある。「これってステップコンテスト」やその普及が試金石になると考える。

また、「タベスケ」については、市広報や商工会議所会報への折込み、また、インスタなど SNS を活用した周知を行い、協力店舗数は確保できたものの、出品数がかなり少ない。店舗にもっと利用していただけるような情報提供を行っていく。

《内部評価》

	評価項目	評価	評価について	総合評価
有効性 (40点)	KPI 達成への貢献度	B	支えあい、安心して暮らせる地域をつくる総合戦略やKPIに貢献している。 また、食品ロス全体に占める販売しうる商品の割合は数%程度であり、直接的な成果は得にくいPR効果による食品ロス低減効果はあると考えている。	B
	総合戦略への貢献度	B		
	期待した効果の達成度	B		
効率性 (30点)	コスト効率	C	健康づくりに関心のある一部の市民への効果はあったが、多くの無関心層への働きかけが不十分であった。 また、「タベスケ」は、商品登録手続きの手間など出品による不安の解消が課題である。	
	手段の最適性	B		
	受益者負担は適切か	B		
持続性 (30点)	必要な体制は整っているか	C	地域で地道に活動している団体等とのつながり連携を強化し、広げていく働きかけが必要である。	
	必要な技術はあるか	B		
	必要な財源の見通し	B		

《今後の展開》

健康づくりを地域に広めること、持続的な活動へつなぐことが目標となる。歩くことや楽しく体を動かすことが、健康で幸せを実感できる「健幸」につながることを、多くの方に知っていただき、定着させていくために、地域や事業所を巻き込み、持続的な活動へ移行させ、「いつまでも健康で暮らす都市、つしま」を目指す。
また、10月の食品ロス啓発月間などにあわせ、食品廃棄物量の多い飲食店・食料品店を中心に「タベスケ」の利用を推奨していく。

担当部局： 健康福祉部 / 担当課： 健康推進課
市民生活部 生活環境課